



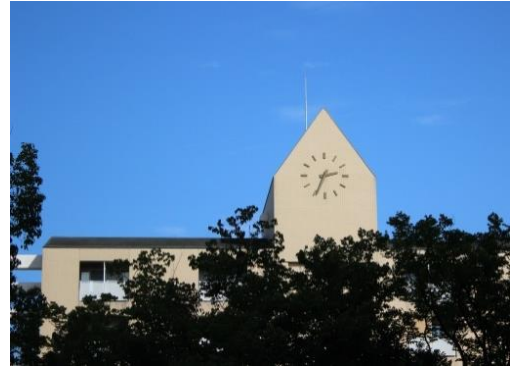
第15号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ



「それ」は、「私たち全員落第します！」から始まった

本学名誉教授 吉村 稔

本誌編集長樽井敏彦氏から「原稿をお願いします」といつもの温顔とは裏腹に否応も言わせぬ強迫的語調で依頼を受けた。以下に記す「それ」は、私の苦し紛れ、その場逃れからの産物である。

私は現在シニア専修コースで本科生科目「文学Ⅲ」のほかに《研究生科目》なるもの2コマ（「日本近現代文学研究」）を担当している。現在受講の方々は本科を終え何のためらいもなく次のステップとして見えていた《研究生科目》受講に進んでこられたことと拝察する。

ところで、本学のシニア専修コースは平成14年に開講したのである。当時の生涯センター所属松成課長がカリキュラム編成で苦勞し、私も相談を受け何とか現在の本科生科目三年間の原型が誕生した。初年度は「文学歴史学科」のみでのスタートで、おいおい「国際」「情報」の学科ができた。

さて、あっという間に三年が過ぎようとした平成17年1月初旬のことと記憶する。生涯センター事務局はシニア専修コース「第一期生」卒業式の準備に精を出していた。そこへ、受講生代表？の4、5名の方が「私たちは勉強を続けたい」の要望を出してこられた。この本科コースは三年制であり卒業生を送り出した後のカリキュラムなどは当然用意されていなかった。無事卒業式を終えれば次は新年度入学生を迎える手はずを想定していた事務局は当惑、混乱した（そうなる）。

一方、この代表者方は、私に「有志15、6人の研究会のような授業をお願いしますか」の話をもちかけてきており、事務局との折衝など何も知らない私は「いいですよ」と気楽に答えていた。

第一期生代表諸氏の交渉は巧みであった。《研究生課程》の科目などはありません、と突っぱねる事務局に、「科目は日本文学の研究科目があります！もし認められなければ、**私たち全員落第します！**」と宣まわった。勝負は見事に決まった。かくのごとき事情と責任で、私は12年目の《研究生科目》を担当し、受講90名余のうち律儀な一期生の方10名が今なお元気に出席されている。

これは、園田学園女子大学「シニア専修《研究生コース》」誕生の楽屋落ちネタである。

目 次

「それ」は、「私たち全員落第します！」から始まった・・・	本学名誉教授 吉村 稠	P 1
第53回けやき祭	「けやき便り」編集クラブ	P 3
けやき祭に参加しました	・研究生 中村米三郎	P 5
歓迎光臨 2回目の台湾留学生との交流会開催	・研究生 阪田 正樹	P 6
吉村グループ料理教室に参加して	・研究生 樽井 敏彦	P 10
モンゴル民族博物館・モンゴルの里へ	・国際1年 河田かつのぶ	P 11
園田学園のバスで高野山に行く	・研究生 中村米三郎	P 12
マンホール蓋で旅の楽しみを増やそう	・国際2年 真鍋 幸裕	P 15
霧ヶ峰高原と北八ヶ岳・縞枯山	・研究生 橋本 秀明	P 18
地図について	・研究生 馬場 正子	P 19
おいそがしいですか？	・研究生 徳田 將之	P 20
出前講座やってます	・研究生 酒井恵理子	P 21
2016 上海・美食の旅	・研究生 楊 錦華	P 23
園田・上食満の獅子舞	・情報2年 藤原多計治	P 25
《四国八十八か所巡礼の旅》で結願した人の話	・情報2年 岡田 真人	P 26
タイ・ラオス・ベトナム周遊の旅	・研究生 十河 和夫	P 27
文歴12期生の懇親会	・研究生 青木 利明	P 30
文学歴史学科9期生 同期会	・研究生 木下 俊造	P 31
読者の広場	「けやき便り」編集クラブ	P 31
総合生涯学習センターからのお知らせ	総合生涯学習センター	P 32
投稿依頼、編集後記、HPからの全号の検索方法	「けやき便り」編集クラブ	P 33



第53回けやき祭 2016年10月22日（土）～23日（日）

暑い夏が終わり、雨の多かった秋口を経て迎えた秋本番。50年以上の伝統を誇る「けやき祭」は、天候にも恵まれ、10月22日（土）、23日（日）の二日間、開催されました。



模擬店など34の出店、キャラクターショーや野外ステージ、ダンスコーナーなど、学生や関係者の素晴らしい企画と実行力で準備万端整え本番。

「けやき祭」の今年のテーマは「笑ん（えん）」。「縁」と「園女」にも掛けたテーマで、来場した地域からのお客様、学生、すべての参加者に笑顔になっていただけるようにという思いを込めたテーマとのことです。



“笑ん”のTシャツを着るスタッフ

今年は総合生涯学習センターから初めての出店を行い、またシニア専修コースから新たに「軽音楽同好会」がステージ演奏するなど、シニアの“やる気”があふれ、大いに盛り上がりました。



生涯学習センターから出店

「けやき写真倶楽部」は、今年は開花亭（食堂）での展示です。作品について、木村講師からは、21人の部員が各5点ずつ持ち寄り、そこから2点ずつ選びました、とのこと。毎月の例会で磨き上げたテーマの選定力、描写力に感服です。鑑賞した人からは、「どうしたらこんなにきれいな色が出せるのだろう」というため息が聞こえました。



また、撮影コーナーで学生や家族連れのお客様を招いて、プロ並み記念写真のプレゼントや、ボードに寄せ書き記入してくれた皆さんに部員手作りの「薔薇ブローチ」を贈呈するなど、趣

向を凝らしてたくさんの観客を集めました。写真倶楽部の皆さんの団結力に脱帽です！



「けやきコーラス部」は日曜日の12時から30分間、開花亭で合唱。田井先生の指揮と山岸先生のピアノ伴奏で、「たんぽぽ」から始まり懐かしい唱歌など13曲を披露しました。

練習で磨いた自慢ののどにうっとり、つい口ずさみ、最後に「里の秋」を一緒に歌って、どっぴり童謡の世界に浸ることができました。日本の童謡はどうしてこんなにきれいなのだろう。心地よい良い時間でした！



「けやき軽音楽同好会」は、写真倶楽部の仲間3名が声を掛け合ってつい半年ほど前に結成したバンドで、ボーカルの野間さん、ギターの徳田さん、同じくギターの木村さんがメンバーです。今回の「けやき祭」が記念すべき初の公演となりました。30分間の演奏を2回ずつ二日間にわたり演奏するというハードスケジュール。繰り出す曲は、話題のボブ・ディランの「風に吹かれて」やシニア世代が久しぶりに聞いて涙するピーター・ポール＆マリー、ビートルズ、井上陽水、加山雄三など。観客の手拍子足拍子つきで最後は写真倶楽部のサポーターの熱狂も加わり最高潮へ。

演奏した3人は、「初めは緊張したけど」「こんなに素晴らしい経験ができるとは思わなかった」と充実感でいっぱいでした。デビュー大成功、おめでとうございます！



なお、今回は文学歴史学科3年生の伊藤幸子さんと研究生の中村米三郎さんが「生涯学習センター」の広告ロゴ「時代屋」と、シニア専修コースのイベントを応援して、ユーモアたっぷりの装いで「歩く広告塔」を演じてくださいました。ありがとうございました！



展示とステージで賑わう開花亭

シニアの展示・発表を中心に見せていただき、自分でやるもよし、見るもよし、自己流でよし、好きなことをとことん楽しむ「シニア」の明るい底力を見せてもらいました。いやー、よかったー！ありがとうございました。

(写真と文：「けやき便り」編集クラブ

井上、宮本、平田、櫻井)

けやき祭に参加しました

けやき遊歩クラブ 中村 米三郎（研究生）

第一日目 10月22日

けやき遊歩クラブが、以前『学生地域連携推進委員会（つなGirl）さん』に、「何か一緒にすることがありませんか」とお願いをしていました。「それでは、けやき祭の時に実施する『キッズフェスティバル』のお手伝いをして頂けませんか」という回答を得ていました。

今日けやき祭第一日目は、そのキッズフェスティバルのお手伝いの日です。

10時30分にキッズフェスティバル受付(1号館前玄関ロータリー)に学生スタッフとして集合しました。学生スタッフは、学生さん4名と私たち遊歩クラブ会員7名です。

ところで、キッズフェスティバルとは、つなGirlさんが主催される、子どもたちを対象にしたイベントです。今回、このイベントに地域の方々や学内のゼミ、クラブ等から12ブース開設されました。

学生スタッフの活動内容は、各ブースの受付のお手伝いや、ブースに遊びに来てくれた子どもたちのサポート等です。

私たち7名は、5つのブースを交替に担当させていただきました。

有意義な、楽しい時間が知らないうちに過ぎていきました。そして、私のけやき祭第一日が終わりました。

お役に立てたかどうかはわかりませんが、有意義な時間を頂いたことお礼申し上げます。有難うございました。



第二日目 10月23日

けやき祭第一日目は、つなGirlさんが主催される「キッズフェスティバル」のお手伝いのため、けやき祭に参加しました。その時、一緒に参加した伊藤幸子さん（文学歴史学科3年）がボランティアで「チンドン」をされているので、伊藤さんと相談して総合生涯学習センター関係で参加されているグループを応援することを話し合いました。そのことを学習センターにお話しして、了解を得ました。

23日、伊藤さんと私は11時に総合生涯学習センターのブース「時代屋」に集合。当然、伊藤さんはチンドンの装いです。(自称)生学宣伝隊の誕生です。



学習センター関係で宣伝の対象は、学習センターが運営する「時代屋」、開花亭で行われる行事で、常連の「けやきコーラス部」のコーラス、今年の創部で初めての参加となる「軽音楽同好会」のバンド、「けやき写真倶楽部」の作品展示になります。取り敢えず、生学宣伝隊のお披露目をかねてキャンパスを一周。多くの方の注目を受けて、一層力が入ります。

12時から公演を行う「けやきコーラス部」と「軽音楽同好会」の宣伝。また、「軽音楽同好会」は15時から演奏を行うので、その宣伝を行いました。

私は、初めての経験だったので緊張しましたが、達成感がありました。



歓迎光臨 2回目の台湾留学生との交流会開催

研究生 阪田 正樹

今年も台湾の開南大学から2週間の短期留学生11人が来校されました。2回目となるシニア専修コースの研修生、研究生との交流会を企画し、7月13日（水）に開催しました。

今回はシニア研修生、研究生の方には予め“私のお国自慢”を書いていただき、それを元に冊子（しおり）を作りました。

シニアの参加者は25人と多くなり教室は満員です。



交流会参加者一同

交流会は西田さんの司会で始まりました。まず西田さんが流暢な北京語で留学生に説明をされた時、留学生たちの間から感嘆と驚きで拍手が起こりました。留学生の少し緊張していた様子が和らいだようです。

最初に国際交流センターの村端所長の挨拶がありました。



村端所長の挨拶

その後、園田シニアを卒業された落田さんに特別にお願いをして手品を披露していただきました。手品は留学生だけではなくシニアにも受けていました。



上手な手品を披露の落田さん

次に留学生一人ひとりの1分間スピーチが始まり、自己紹介、日本でやりたいことや、見たいこと、食べたい日本料理などさまざまな日本での抱負などの紹介がありました。少し日本語が苦手な留学生も見受けられました。



次にシニアからは冊子“私のお国自慢”を解説していただきました。

簡単に紹介します。（敬称略）

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 厳島神社の秋の観月能 | 馬場正子 |
| 2. 激安自動販売機「おいでや」 | 酒井恵理子 |
| 3. 伊丹城（有岡城） | 中村米三郎 |
| 4. 尼信の世界の貯金箱 | 峠田桂子 |
| | （所用で欠席） |

5. Can★Do とオーエスドラッグ 井上礼子
 6. 庄下川の桜並木 乙度麗子
 7. インスタレーン発明記念館 河田かつのぶ
 8. 老ノ坂山地と金剛山 木下俊造
 9. インスタレーン発明記念館 松隈美江
 10. 下鴨神社 今池純江
 11. エキスポシティ 森川博司
 12. 神戸のお勧め（神戸ビーフ等） 樽井敏彦
 13. アメ村、神戸異人館 徳田将之
 14. デパ地下とお祭り 櫻井秀也
 15. メイドイン尼崎 日笠典子
(所用で欠席)
 16. 酒造り（西宮・灘） 服部寿美子
 17. キディランド 阪田正樹
 18. 本学近松研究所 西田哲三
 19. 映画村、アベノハルカス等 伊藤幸子
- その他に箕面公園、ヨドバシカメラなど多くの投稿がありました。



B班



C班



D班



A班



E班

次に開南大学の留学生を引率されている北島先生の“台湾は良いところで、できれば台湾へ来てください”という挨拶のあと、茶話会の教室に移りました。

茶話会ではシニアからのお菓子などをいただきました。A班からE班の5組にわかれて留学生2～3人とシニア4～6人単位による茶話会の開催です。



全体の風景

留学生の皆さんはシニアの多人数に緊張していましたが、お菓子を食べながら緊張も解けていき、各テーブルでは台湾の話、日本の話などいろんな話が交わされていました。

台湾の若い学生の笑いや驚きは私たちシニアには、忘れていた感情表現を少しでも取り戻すいいキッカケになったかなと考えています。

しかし留学生の数名の方が日本語の会話が苦手で、交流会自体ストレスになったかもわからないので、今後の運営には改善が必要かもしれません。

また、留学生にと“みたらしだんご”や扇子をプレゼントしていただいた方々、どうもありがとうございます。



乙度さんの絵の前に はいポーズ

規定の授業を超えて話が弾み、昼食の時間に食い込んで12時40分に終わりました。



お菓子の札束で はいポーズ

今回初めて交流会に参加された櫻井さんの感想を紹介します。

“交流会ですが、大変楽しかったです。特に、留学生と直接会話ができた後半は、留学生の若さ、素直さがとても好印象で、楽しい時間でした。私たちのE班は留学生2名にシニア6名でしたが、留学生は日本語をしっかりと勉強して、シニアの日本語をほぼ理解して答えてくれたので感心しました。

留学生の声が少し小さいのと会場全体が盛り上がり過ぎていたこともあり、やや留学生の声を聞き取りにくいと感ずることがありました。限られた時間でしたので、突っ込んだ話し合いまでには至らなかったかなという感もあります。E班の他のシニアからは、楽しかった、もっと時間が欲しかった、との声がありました。

難しいことと思いますが、留学生の方々のプロフィール（出身地、専攻、学年、家族、趣味、日本来訪歴、日本の好きなところ、将来の希望等々）をあらかじめ示していただけたらもう少し深い話ができただけかもしれません。”

今回参加できなかったシニアのみなさんも第3回、第4回と続けていく上で、企画、改善点等、ご意見をいただけたらありがたいです。

開南大学短期留学生へのアンケート結果

留学生 11 人全員にアンケート回答をいただきました。（抜粋）

1 なぜ日本語を学びたいのですか（為何想學習日語）

日本が大好き（3人）。日本のアニメが好きだから。日本文化を深く知りたいから。日本の文化が大好き（2人）。旅行会社で仕事したい。日本語が面白い。日本の文学と舞台芸術を学びたい。日本のたくさんの知識と文化を学びたい。

2 日本に来て驚いたことは（來到日本感到吃驚的是）

トイレでティッシュを中に入れること（3人）（衛生紙可以去 桶）。大阪の雰囲気と台湾が似ている。街や道がとてもきれい。大阪の食べ物の味付けと台湾が似ていること。自動販売機がとても多い。バイクが少ないこと。道にゴミが完全になくこと。全部びっくりした。

3 日本に来て失敗や恥ずかしいことは何ですか（來日本失敗和害羞的事是什麼）

日本語が使えなかったこと。間違ったことを話したこと。日本語の会話は上手でない。常常聽不懂。

4 今回、大阪で何をしたいですか（此次，想在大阪做什麼）

道頓堀、大阪城、心齋橋へ行きたい。いろいろな文化を体験したい。大阪での日本文化を体験したい。アメリカ村に行きたい。食べ物を食べる。関西弁を学びたい。留学体験。

5 台湾料理で一番好きなのは？（台灣料理中最喜歡的是）

籬菠糕（ニンジンケーキ）。大根餅。蚕餅（4人）。豆花。牛肉麵。炒麵。湯包。小籠包。

6 台湾でお勧めの所は

九份（3人）。士林夜市（4人）。阿里山。墾丁。陽明山。南投。台南。夜市（でも財布と携帯とか気をつけて）。台北 101。花蓮。

7 朝食は何を食べますか？（早飯吃什麼）

豆漿（2人）。パン（6人）。サンドイッチ（4人）。食べない（2人）。

8 台北、台中などで美味しいと思う料理、お店を教えてください（請告訴想在台北好吃的飯菜，店）

士林夜市（3人）。饒河夜市（2人）。淡水老街。士林夜市の豪炊鶏排。台中。鼎泰豊の小籠包（2人）。士林夜市の上海生煎包。師大夜市。

9 去年台湾で上映された映画“湾生回家”を見ましたか（看了去年在台灣被放映的電影“灣生回家”嗎）

①見た 1人 ②見ていない 10人

（湾生；戦前台湾で生まれた日本人）

10 日本で知っている有名人は？（例：きゅりーばみゅ）（在日本知道的名人呢？）

小池徹平。嵐。福山潤。福山雅治。櫻井孝宏。神谷浩史。早乙女太一。AKB 48。北川景子。きゅりーばみゅ。安倍晋三。山下智久。生田斗真。福士蒼汰。桐谷美玲。西野カナ。藤建。大谷翔平。

11 昔の台湾での日本人“八田與一”を知っていますか？（知道在從前的台灣的日本人“八田與一”嗎？）

①知っている 10人 ②知らない 1人

12 過去に日本に来たことがありますか？（之前有去過日本嗎？）

①ある 7人 ②ない 4人

13 特技はありますか？（有拿手的技術嗎？）

クラリネットを吹くこと。スイーツを作ること。ドラム。ピアノ（2人）。撮影と演劇。

14 日本に親戚等知り合いはいますか？（有親戚或認識的人在台灣嗎？）

①いる 4人 ②いない 7人

15 台湾の若者は電車で率先してお年寄りに席を譲りますが、誰に教えてもらいましたか（台灣的年輕人乘電車帶頭給（對）上年紀的人讓出座位，是誰教了嗎）、日本ではそういうことが少なくなっています（在日本那樣的事變得少）

家族と先生（3人）。常識。学校の先生（3人）。母から教えられた。もう習慣になっている。

吉村グループ料理教室に参加して

研究生 樽井 敏彦

吉村名誉教授が担当されている講座の受講生を対象としたグループ料理教室が6月30日（木）、10時から尼崎市立勤労婦人センターの「トレピエ」3階・調理室で開催されました。

今回で第9回目の実施ということで約30名の受講生が集結。料理が始まる前に東京在住のシニア専修コース1期生の久保田さんが急遽参加されるサプライズもあり、教室は大いに盛りあがりました。この料理教室ではこれまでも何度かサプライズがあり、内容については当日のお楽しみだとのこと。



料理実習では教室内の各調理台に5～6名がグループに分かれて、まず本日の運営委員の裏地さんによるレシピの説明がありました。

本日の献立は、①薄切り肉で豚の角煮、②エビ風味のちぎりサラダ、③アスパラごはん、④わらび餅の4品です。

レシピの説明後に各グループでの調理がスタートしました。私は日頃から料理はあまりやったことがないので皆さんの足手まといにならないようにわらび餅づくりに挑戦。お鍋に2種類のわらび粉と砂糖を入れ、水を加えて混ぜて練っていくのですが、なかなかわらび餅特有の透明感のある状態にならずに苦労しました。

私たちのグループでは大泉さんの手慣れた料理作りに感心するばかりです。日頃から料理をやっておられるとのことグループの皆さんへの的確なアドバイスなどリーダーとして指導的な役割を果たしていただきました。

各グループとも12時には予定の料理が完成し、引き続きテーブルを囲んでの食事会に移りました。



参加者全員が手分けして、頑張って調理した料理をいただくのはレストランや食堂での食事とは異なり格別なものがあるようです。食事の最後にコーヒーと東京からのお土産のクッキーを楽しんだ後、全員で後片付けを終えて散会となりました。





国際文化学科合同研修

モンゴル民族博物館・モンゴルの里へ**モンゴル文化を学ぶバスツアー**

国際文化学科1年 河田 かつのぶ

合同の課外授業は教室を離れて「モンゴル文化を学ぶ」がテーマのバスツアー。国際総合研究、アジア太平洋文化論の受講者をはじめ、研究生も参加する国際文化学科合同研修でした。

事前学習としての講演会が7月8日（金）にあり、JICAボランティアの岡本祐子さんから、モンゴルのカラコルム博物館に2年間勤務した経験をもとにした話を聞きました。岡本さんは撮影した多くの写真を示しながら、食文化や草原に住む人びとと都市に住む人びとの違いを示してくれました。



10月8日は、いよいよバスツアー。9時に学園を出発したバスは、丹南篠山口インターを出て、黒豆の里で休憩し、オータニモンゴルの里から、モンゴル民族博物館へ。

モンゴルの里ではゲルと呼ばれる

テントの中で、モンゴルのお茶と揚げ菓子を食べながら、スーチンドロンさんからお話を聞きました。

ゲルの天井に開けられた天窓から差し込む日差しは照明になり、また刻々と床と壁を移動する日差しが時計にもなることを体験し、自然と調和した暮らしを感じることができました。

出されたお茶と菓子は思った以上に「塩辛い」もの。乾燥した環境で体から塩分が蒸発して塩分補給が必要なことから、自然と塩分を摂っているといいます。一人分の馬乳茶はヤカン一杯程で、それを時間をかけて飲むという、遊牧民のゆったりとした暮らしぶりを知りました。



白馬に乗った青い服の兵士像が出迎えてくれたのが、豊岡市立日本・モンゴル民族博物館。「広大なモンゴルの歴史と文化を体感」をテーマに、入口から、シルクロードに見立てた通路を通して「アジアの歴史と風土」「モンゴル草原のいのり」などのコーナーがありました。遊牧生活を営むモンゴルの人びとの暮らしが、実物大のゲルや生活民具、民族衣装などで展示されていました。自由に体験できる民族衣装コーナーでは、遊牧民姿で写真におさまる参加者もいました。

野菜はほとんど食べない草原に住む人びとの食べ物を、「白」と「赤」で表現していることを知りました。「白い食物」とは、家畜である羊の乳をもとにした乳製品の食べ物、「赤い食物」とは羊の肉を中心とした食べ物だということです。モンゴルの食文化をうまく表現していると思いました。また、展示物に触れたり、円形で赤を



基調としたゲルの中に座ったりすることで「異文化」を感じました。昼食に寄った出石の城

下町で食べた出石蕎麦の味は格別で、「自文化」を感じることもできました。

けやき遊歩クラブ第28回例会

園田学園のバスで高野山に行く

けやき遊歩クラブ 中村 米三郎（研究生）

台風と秋雨前線で不安定な天気が続いていましたが、10月1日（土）園田学園のバスを使って「高野山」に行ってきました。

43名が参加されました。バスは、補助席を使わなければ45人乗りなので、ほぼ満席の状態といえます。

当日は、曇り→うす曇り→薄日と天気が良くなっていきましたが、太陽が顔を出すと「暑いな！」という状態になりました。

さて、園田学園でバスには13名が乗り8時30分に出発、あとの30名はJR尼崎駅に集合して尼崎駅北側でバスに乗って全員が集合。

9時にバスは「高野山」に向けて出発しました。遊歩クラブのバス旅行は、これで3回目になります。バスのドライバーは、いつもお世話になっている池田さんです。「高野山」へ着くまでは、完全に池田さんにお任せで、我々は、バスの中でお喋りをしてい



るか、眠っているか、本を読んでいるか、だけです。

トイレ休憩でパーキングエリアに寄りましたが、予定通り11時30分頃高野山に入り、最初の目的地「蓮華定院」に着きました。

9月25日のNHK大河ドラマ「真田丸」で、この「蓮華定院」が紹介されていました。この「真田坊 蓮華定院」は真田家の菩提寺なのです。

昼食は、この「蓮華定院」の精進料理です。



予約の時、この料理は「3,500円です」と言われましたが、それを税込み2,500円でお願ひしましたので、バスの中で、皆さんには「あまり期待しないでください」と言っていました。が、「それほど悪くは無かったかな」と思いました。

私は、食事で使用するお茶碗と湯飲みに、真田家の家紋「六文銭」が入っていたのに感激。記念に、お茶碗と湯飲みを買いました。

食事中、住職夫人が「蓮華定院」のことと関ヶ原の戦いで敗れて高野山への蟄居を命じられた真田正幸・信繁（幸村）父子の話をして下さいました。

話によると、高野山のどの寺も罪人となった

この父子を受け入れなかったそうですが、室町時代に信州小県郡の豪族と縁があったためか、「蓮



華定院」は、真田正幸・信繁父子を受け入れたそうです。なお、真田家は信州小県郡の出身です。これが縁で「蓮華定院」は、信州松代藩（10万石）の真田家（藩祖は真田正幸の長男信之）の菩提寺となったようです。

食事の後で、寺の執事の案内で「蓮華定院」を拝観しました。正幸・信繁父子が起居した「上段の間」「本堂」そして真田信之・信政（松代藩2代目藩主）父子の墓を拝観しました。

NHK大河ドラマ「真田丸」では、正幸・信繁父子の生活は、高野山の麓の九度山になっていますが、当時、高野山は女人禁制の山でしたから、



九度山を舞台にしたと思われます。

13時頃、六文銭の提灯が下がる門を後にして、「蓮華定院」から次の目的地「檀上伽藍」へバスで向かいます。

「檀上伽藍」は、弘法大師が高野山を開創された折、真っ先に整備、着手された場所で、弘法大師が実際に土を踏みしめ、密教思想に基づく塔・堂の建立に心血を注がれたそうです。高野山全体を金剛峯寺という寺院と見たとき、その境内地の核にあたる場所で、古来より弘法大師入定の地である奥の院と並んで信仰の中心として大切にされてきました。

「檀上伽藍」での主な見所は、「根本大塔」「金堂」「三鈷の松」かと思いますが、当日の10月1日は「金堂」で「結縁灌頂」が行われる日でした。

「結縁灌頂」は、仏様と縁を結ばせて頂き（結縁）、阿闍梨から大日如来の知恵の水を頭の頂きより注いでいただく（灌頂）ことによって、我々の心の中に本来備わっている仏の心と知恵を導き開く儀式で、高野山では最も厳格な法会の一つにされているということでした。

この儀式に参加するため多くの人が「金堂」の側に並んでおられ、「金堂」の拝観はできませんでしたが、そのため200円の拝観料が必要な「根本大塔」は無料で拝観できました。

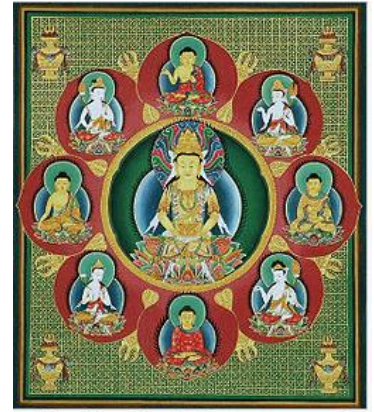
「根本大塔」は、「檀上伽藍」の中心として816年高野山開創のころより着手し、弘法大師と真然大徳（空海の甥）の二代にわたって887年頃完成したそうです。

現在の大塔は、昭和12年に再建、外壁塗り替えは平成8年にされて、高さ



約50m、四面30mの威容を誇っています。また内陣は、中央に胎蔵大日如来、四方に金剛界四仏、周囲16本の柱には堂本印象画伯筆の十六大菩薩を配して、曼荼羅を立体的に現わす、いわゆる立体曼荼羅になっています。この立体曼荼羅は素晴らしかったです。

曼荼羅とは、日本では通常、仏教の世界観を表現した絵画等のことをさしますが、多くの仏様を配置するため、普通は絵画やタペストリーで作られています。ただ、弘法大師はより多くの人たちにも分かり易くするため、仏像を作成して立体的に曼荼羅を表現されたと思われます。また、京都の東寺講堂にも立体曼荼羅があります。



曼荼羅（京都市、東寺）

「三鈷の松」は、弘法大師が唐から帰国される折、伽藍建立の地を占うために投げられた三鈷が掛かったと伝えられる松で、この松には三本ある松葉が見つかることもあり、縁起物として松葉を持ち帰り、お守りとして大切にされているそうです。我々の仲間も探され、「あそこにも、ここにも！」と見つけられて、喜んでおられました。

14時頃に「檀上伽藍」から「中の橋駐車場」にバスで移動しました。

「中の橋駐車場」で最後の目的地「奥の院」を案内して頂くガイドさんと落ち合い、「奥の院」に向かいました。

「奥の院」は、高野山信仰の中心であり、弘法大師が入定されている聖地です。

その広さは、



約28万平方メートル（幅200m、長さ1400m）あり、奥の院参道に沿って並ぶ石塔の数は10万基とも20万基とも言われ、大名の半数近く、また歴史的に有名な人々から名もない人々まで、あらゆる階層の人々がここに墓碑を建立しています。弘法大師が永眠される土地に墓碑を建てたいという人々の願いが、この石塔群を形成したのではないのでしょうか。ガイドさんのユーモアたっぷりの解説を聞きながら、この「奥の院」を拝観します。



奥の院参道には、上杉謙信・景勝霊屋、松平秀康・同母霊屋など、建造物として重要文化財に指定されているものを始め、法然、親鸞、織田信長、豊臣家墓所など古今の様々な人物の墓碑や、関東大震災・阪神淡路大震災・東日本大震災などの大規模な自然災害の犠牲者、太平洋戦争の戦没者らを慰霊する為の、また多くの企業の供養碑・供養塔がありました。芭蕉や与謝野晶子の句碑もあります。

私は、尼崎藩主青山幸成の墓を見つけて、「奥の院」をより身近に感じました。



ところで、石塔群の中で一番大きな一番石は、崇源院（徳川秀忠夫人・江一浅井三姉妹、淀殿の末妹）供養塔で高さ6.6mあります。次いで二番石は安芸浅野家供養塔、三番石は加賀前田家供養塔です。

そして、御廟橋を渡ると弘法大師入定の地とされる奥の院に入ります。



一番奥には、弘法大師が今も瞑想されているとされる御廟があり、その手前には信者が供えた無数の灯明がゆらめく燈籠堂があります。

弘法大師は、62歳の時座禅を組み、手には大日如来の印を組んだまま永遠の悟りの世界に入り、今も高野山奥の院で生きていと信じている人もおられるとのことで、弘法大師の「死」は、「死去」「入寂」「寂滅」などといわず「入定」というそうです。

「御廟」は弘法大師入定の地で、檜皮葺三間四面宝形造（ほうぎょうづくり）の堂になっており、御廟は瑞垣（みずがき）に囲われています。御廟の裏側、北西の壁面の下部には直径約20cmの穴が設けられていて、衆生救済のために各地に顕現される弘法大師の御霊の出入り口とされています。

弘法大師の御廟をお参りした後は再び参道を通り、「中の橋駐車場」まで帰ってきました。これからは、お楽しみ「お買い物タイム」になります。まず、ガイドさんの案内で「数珠屋四郎兵衛」に行き、茶菓の接待を受けて、高野山のお土産を買いました。16時に高野山を出発、帰路につきます。

途中で、かつらぎ町の道の駅に寄って頂いて、おみやげを買いました。柿、ミカンが安そうだったので、多くの方が買っておられました。私も、柿、ミカンそして鮎寿司を買いましたが、少し多く買ったようで、かなり重かったです。



18時45分JR尼崎駅、19時園田学園に帰ってきました。皆様のご協力のお陰で楽しいバス旅行になりました。有難うございました。

また、この例会でリーダーや会計をお願いした方々にご苦勞をお掛けしました。心からお礼を申し上げます。有難うございました。

マンホール蓋で旅の楽しさを増やそう

国際文化学科2年 眞鍋 幸裕

皆さん、歩道でよく見かける下水道のマンホール蓋には、各自治体によって工夫された様々な美しいデザインの蓋があることをご存知ですか。

例えば、大阪市の図柄は、大阪城と桜と水の流れです。兵庫県では、姫路市は世界遺産の姫路城、西宮市は甲子園球場と酒蔵・酒樽と桜、篠山市は城跡の石垣と松の木とササユリです。近くでは伊丹市は昆陽池公園に飛来する白鳥とカモです。宝塚市は可愛いすみれの花、川西市はリンドウの花です。

これら各市の図柄から想像すると、各市のシンボリックな物、自慢の物、市の花、市の木等がデザインされており、その地の特徴が一目で分かるように工夫されています。

また、最近補修・更新した歩道のマンホール蓋は3色くらいのカラーの蓋があり、綺麗なカラーの蓋を見つけた時は、感動し、撮影します。

私は、けやき遊歩クラブと会社のOB仲間の歩こう会等で近郊を散策しており、最近散策したコースとその時見つけたカラーのマンホール蓋について紹介致します。皆さんも旅に出たときは、史跡や景色だけでなく、時々足元を見て歩き、各地の工夫されたマンホール蓋の図柄を見つけ旅の楽しさを増やして下さい。

まず、箕面市ですが、阪急箕面駅から滝道を1km、約15分のところに龍安寺があり、ここは富くじ、宝くじの元祖と言われており、また、ここは役の行者が昇天された所で、その命日7月7日には、山伏50名ほどが集まり、大護摩供養が行われます。珍しい行事です。是非一度お出かけ下さい。そこから2km弱で大滝に着きます。箕面川の右岸の滝道を歩く途中に色が少し残っているマンホール蓋があり、図柄は滝とモミジです。

帰りは途中から川の左岸を歩いて下さい。細い道ですが、自然豊かな歩道で右岸とは違う景



箕面市

色が味わえます。途中右岸の道と合流する橋のたもとに山本珈琲館があり、ここで一休み。そこからは右岸を約1km 歩けば箕面駅です。駅のすぐ近くに、みのお本通り商店街があり、その入口歩道にカラーのマンホール蓋があり、水色の滝と紅葉したモミジの色が鮮やかです。

次は、明石市です。JR 明石駅の手前の朝霧駅に降り、JR の路線を渡る陸橋の前の歩道にカラーのマンホール蓋があり、図柄は東経 135 度子午線と明石天文科学館と日本地図です。JR の陸橋を渡ると大蔵海岸公園であり、明石大橋や淡路島を眺めながら天文科学博物館まで歩きます。ここでは展望台からの眺めとプラネタリウムで星空を楽しんで下さい。次は明石城址へ、ここには天守閣はありませんが、立派な石垣と櫓が残っています。城址のすぐ前が JR 明石駅、駅の南側は、魚の棚（うおんたな）商店街で明石特産の海の幸の店が約 110 店舗あります。ここでは明石焼きを御賞味下さい。



明石市

次は泉州の城下町、岸和田市です。南海電鉄岸和田駅に降り、駅前通り商店街を少し歩き、寺町筋で左に曲がり、かじや町筋を歩きます。ここはお寺と昔ながらの商店街の通りで、この歩道にカラーのマンホール蓋があり、図柄は城と花でしたが何の花か判らず、次に訪れた自然資料館で聞いたところ、中央に市の花バラをその周りに市の木楠の葉と岸和田城が描かれていました。次はだんじり会館へ、ここには江戸、明治時代、現在の実物のだんじりが展示されており、ボランティアガイドの丁寧な説明があります。また、大型マルチビジョンの映像で迫力のあるだんじり祭りが見られます。会館の裏側が岸和田城で、城は1827年落雷で焼失し、昭和29年鉄筋コンクリートで再建されたものですが、三層の美しい天守閣であり、天守閣からは、岸和田の街並み、遠くには、関西空港、明石大橋も眺めることができます。



岸和田市

次は少し遠くなりますが、大和郡山市。この図柄は金魚鉢で気持ちよさそうに泳ぐ金魚でした。



大和郡山市

次に信州白馬村。ここは長野オリンピックのジャンプ台があり、そこに行く歩道にカラーの蓋があり、図柄は白馬三山と可愛いカタクリの花でした。



白馬村

ところで、皆さんが通学している園田学園女子大学がある尼崎市のマンホール蓋の図柄をご存じですか。中央部に綺麗な水辺に住むメダカ、ドジョウ、蛍、トンボなど8種の生物、周りには市の花キョウチクトウの花がデザインされています。尼崎市のHPで調べたところ、尼崎は武庫川、猪名川、庄下川に囲まれた町であり、水に親しむ町、自然と水、夢とうるおい、をテーマにデザインしたようです。平成28年は尼崎市市制100周年の年であり、色々な計画がありますが、環境モデル都市として南部の工場撤退の跡地に森をつくる構想が進んでいます。100周年記念のマンホールカードも発行されています。園田学園女子大学を出て五合橋線、かごの屋さんの前の信号を渡ったところに綺麗なカラーのマンホール蓋があります。是非ご覧下さい。



尼崎市

また、“日本マンホール蓋学会”で検索すれば、全国のマンホール蓋の写真を見ることができます。

関西周辺の都市のマンホール蓋のデザイン



大阪市



姫路市



西宮市



篠山市



宝塚市



伊丹市

写真は日本マンホール蓋学会のHP から転載

霧ヶ峰高原と北八ヶ岳・縞枯山

研究生 橋本 秀明

しばしば利用する会社のツアーに参加。一泊二日の山の旅。参加者は姉妹含め21名、半分以上知らない顔。他に馴染みのリーダーと添乗員(本来リーダー)。以下に行程を示す(移動はチャーターバス)。

・8月22日(月)

梅田・京都竹田==<ビーナスライン>==霧ヶ峰高原霧の駅・・・沢渡・・・車山湿原(迂回)・・・車山・・・車山肩==蓼科温泉(蓼科パークホテル泊)

・8月23日(火)

ホテル==山麓駅≡≡<北八ヶ岳ロープウェイ>≡≡山頂駅・・・坪庭・・・雨池峠・・・縞枯山・・・茶臼山・・・麦草峠==白駒池==ホテル(入浴・昼食)==京都竹田・梅田解散

百名山の一つ車山(標高1925m)を中心に東西10km、南北15kmに広がる標高約1600mの霧ヶ峰高原。他に天然記念物の八島ヶ原湿原・車山湿原・踊場湿原を有す。日本グライダーの発祥の地でもある。

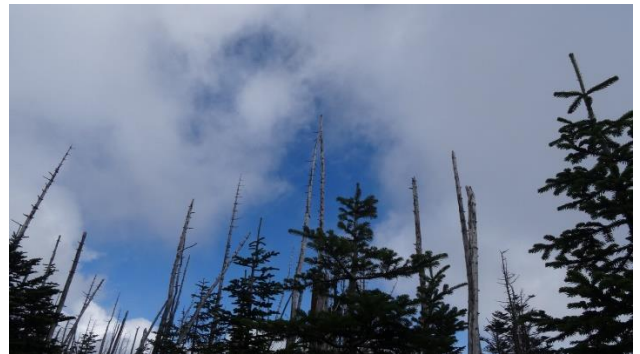
2年前、蓼科山に登った日の前日に車山から車山湿原を歩いたことがある。今回は車山湿原を迂回して反対側から車山へ。霧の駅から沢渡までは高低差はないが岩がゴロゴロしていて大変歩きにくい道。沢渡から車山乗越まではなだらかな道。花は時期が悪く咲いたものは余らない。車山山頂は強風、しかし360度のパノラマを見ることができた。

ホテルの夕食は豪華。鮎・野菜・五平餅などは目の前で焼きながら食す。面白いものとして木枠に入れた心ところてん太を自分で押して作ること。

雨池峠と茶臼山(標高2384m)の間にある縞枯山(標高2403m)は、ほぼ東西500mに渡る頂上部をもち、シラビソやコメツガの森に覆われて、これらの樹林が立ち枯れたものが数段の白い横縞をつくっているところから山名が生まれた。

縞枯現象は風・降雨・日射などの自然現象によるもので、100年から300年の周期で世代の交代を繰り返すものといわれている。この現象は、蓼科山・茶臼山などにも分布している。

雨池峠から縞枯山は標高差は余りないものの急登になる。ここも岩がゴロゴロしていて歩きにくい。縞枯山の山頂は見晴らしが全くない。大岩で構成されているワイルドな展望台を経由して茶臼山へは一旦下り上ることに。



茶臼山からの展望

茶臼山から麦草峠は長い下りとなる。峠からバスで白駒池駐車場へ。10分ほど歩くと白駒池。ここには4年前、北八・天狗岳からの下山のときに来ている。四季折々、景色のよい池である。人気のスポットで、平日なのに観光客も多かった。滞在10分の間に霧が池全体を覆ってしまい向こう側は何も見えず。



白駒池

ホテルに戻り入浴・昼食後、帰路につく。

地図について

研究生 馬場 正子

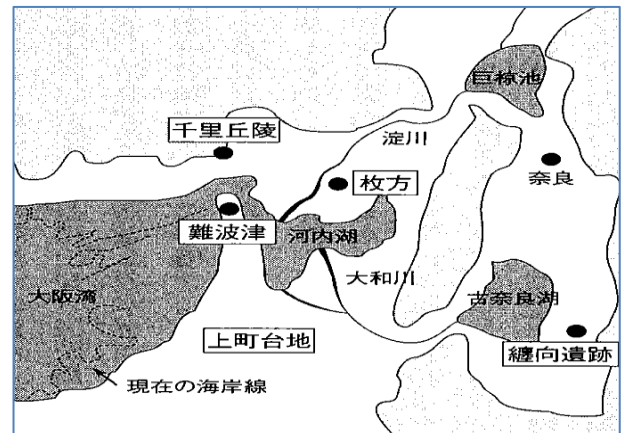
国際文化学科に入って、たくさんの国や地域のことを学習してきました。だけど頻繁にお出かけできない私にとって地図をみて想像するだけです。それでも見ていると思わぬ発見があって楽しいものです。特に太平洋は広く、戦前までは太平洋横断は大変だったということを意識していませんでした。それどころか、大西洋さえなかなか渡れなかった（渡らなかった）のにはびっくりでした。太平洋に比べ、アメリカ大陸（ブラジル）と西アフリカはとっても近いことに気がつきました。気づかなかった理由の一つは大西洋を真ん中においた地図が日本には少ないからだと思います。夢の夢ですが、ここを船で渡ってみたいです。



アフリカのセネガルからブラジルのナタール

話を日本に戻します。今度は古地図です。日本史を調べるために、古代史から読んでいくと、疑問だらけです。博多、出雲、敦賀、新潟などは海に面した町で、海の交通路と考えれば納得がいきます。なぜ奈良が古代王朝の舞台になったのでしょうか。

これは古代の近畿が現在の形とかなりちがうことがわかって少し解決です。大阪湾が深く内陸まで入り込んでいたのです。そして、ため池という大きな池があり、これに大和川を利用すると大阪湾に出やすかったようです。



また、少し離れていますが、淀川、琵琶湖を使うと日本海の海路と繋がります。もっとも、敦賀についた船をひっぱり、琵琶湖にもってくる必要がありますが・・・。

京都も同じように内陸の王朝ですが、ここにも戦前まで大きな池（巨椋池）があり淀川とあわせて利用していました。

江戸時代になっても大阪は今と違い湿地帯が多く、今とは違う川筋を使い、商売をしたようです。難波の三大市場を調べていると、堂島の米市場（堂島川）、天満の青物市場（大川）はだいたい見当がつかしましたが、魚市場が見つかりません。そんな時、古地図！！と思いつきました。幸い、今は観光めぐりが盛んで、観光用古地図の本も見つかりました。調べてみると「ざこば」という名前で、阿波座にあったようです。ただ、今は記念碑がたっているだけです。

地図は究極の辞書ですね。



⑥あたりが「ざこば」です

おいそがしいですか？

研究生 徳田 將之

サラリーマンだった頃、面識ある取引先の人と会えば時候の挨拶と同じように「おいそがしいですか？」と常套句のように使ったり、また訊かれたりしたことがよくあった。

40数年前20代半ば頃に来日3年目で挨拶程度の日本語を理解出来るようになったドイツ人が1年ほど直属上司だったことがあり、接客で幾度か同席したことがあった。面談の冒頭に、件の「おいそがしいですか？」と挨拶代わりに訊ねると相手から「貧乏暇無しですわ・・・」とか「ぼちぼちですわ・・・」の返答に混じり「はい、おかげさまで・・・」という返事が結構多くあった。

そんなやり取りの接客後、その上司から「なぜ彼はおかげさまで忙しいというのか？」と質問されたので「忙しいのは仕事（相手方との取引）が順調で商売繁盛であることを意味し、それに感謝していることを表しているから」と説明してもこれが理解出来ないのである。

洋の東西それぞれに生活哲学が異なるのは当然だとしても、ドイツ人にすれば、おかげさまで忙しいという考え方は無いからそのような返答を受けたり、また訊かれたりすると戸惑うわけである。そもそも労働（会社勤務）に対する基本的な考え方が異なり、欧米的個人主義の考えでは、会社に管理される勤務時間とプライベートな自由時間を明確に区別している。例えば、残業するなど時間内に仕事が出来ない（と、思われる）人イコール無能、と考える人達だから付き合い残業ということもあり得ないし、また過労死（当時はそんな言葉も無かったが）など、恐らく説明しても一体何のことか分からない次元の世界なのである。そう、一方で多忙は美德であり、他方では悪徳なのである。

先日、1年前にコペンハーゲン（デンマーク）で職（インテリアデザイナー）を得た次男が休暇だといって帰ってきた。今年2度目の帰国になり、それぞれ2週間ほどの休暇というが入社1年目

でも有給休暇は5週間もあるそう。また、病欠は有給休暇とは別枠で有り、日本で深夜残業や休日出勤など普通だったことが、それらとは全く無縁で有給休暇もたつぷりある。更に給料は約2倍（社会保障費や付加価値税が高いので手取りは大幅減になるそうだが）にもなり、カルチャーショックを実感しているという。

日本はGDP世界3位のいわゆる経済大国だが、経済的豊かさを表すとされる時間当たり労働生産性の世界比較などの資料（OECD・経済協力開発機構）を見ると、米国やドイツもそうだがデンマークなど北欧の国々は日本よりも遥かに高く上位を占めている。

統計上の問題もあろうが換算される為替レートは購買力平価なので、勤務実態に近い労働の姿と思われる。また、サービス残業などは含まれていないから当然その格差は更に広がる。

要するに日本（人）の時間当たりの労働効率は先出の国々に比べて悪いという事になる。

政府が最近になり「働き方改革実現委員会」なるものを発足させ長時間労働の是正等を目指すとしているが果たしてその実効性や如何に？というところだろう。

労働効率が悪いから忙しい、というのかどうかは別にして、そういえば退職してから友人・知人と会っても「おいそがしいですか？」と挨拶されたりしたことは無いからサラリーマンは忙しい、と言いつつ、それをある意味楽しんでいるのかもしれない。まあ、自由人（ヒマ人とも言える）の私に「おいそがしいですか？」とは訊けないだろうけれど・・・。

そんな息子が帰ってくるというので嬉しそうにしていた家人が「あの子とは18年しか一緒に暮らせなかったのよねえ。小さい頃から私から離れよう、離れようとして、とうとう外国にまで行っちゃったから・・・」と言うので、「青い目の相手なんか連れてきたらどうする？」と茶化したら、一瞬間が空いたが「べつにかまへんわ・・・」と言いつつ視線は宙を舞っていた。

出前講座やっています

園田シニアの人間探究6

研究生の酒井恵理子さんが、『「サ高住」の探し方』という解説書を出版しました。それを期に各地で出前講座をされています。著者の一人である酒井さんにインタビューしました。



出前講座で話をする酒井さん

「サ高住」の本を出版するいきさつは？

「サービス付き高齢者向け住宅」のことを「サ高住」といいますが、いわゆる福祉の本です。ところが私は、福祉の分野と全く関わりはなかったんです。そんな私でしたが3年前に、神戸市が消費者問題解決の専門家を養成のために、100時間もの「神戸コンシューマー・スクール」というカッコいい名前の講座を開設して、それを受けたんです。そこを終了したら消費生活マスターと呼ばれるんですが、有志で「消費生活マスター介護問題研究会」を結成しようということになりました。

研究会は、講座の講師だった筑波大学の本澤
巳代子先生が指導教官になってくださって、介
護をテーマにして研究の成果をパンフレットに
しましたが、ついに本にしようということにな
りました。大変でしたよ。

分担して書きましたが、イラストがたくさんあり、解りやすい工夫をしています。本学の図書館に一冊置いていますから、見てください。

出版された本の特徴は？

タイトルの通り、ズバリ、サービス付き高齢者向け住宅の探し方です。サ高住は広さやサー

『サ高住の探し方』出版の酒井恵理子さん

ビス・立地など多様な形態があります。その中から自分に適したサービスが付く高齢者向けの住宅を一つ選ぶのですから、有料の老人ホームを選ぶより難しいはずです。

入居者の希望する暮らし方を、生活・医療・介護・お金の4項目に分けたチェックリスト

をもとに整理して契約につないでいきます。

サ高住に住み替えることは、自分らしい生活を続けることです。そして一人ではできないことは手伝ってもらいながら暮らしていけるか、リストをもとに確認してもらいます。

「生活チェックリスト」の食事の項目では、調理場所として「建物内ですべて調理」か「外部業者が調理したものを温める」か。症状に合わせた料理では「糖尿病食／きざみ食／その他」かなどをチェックします。

経営主体は、「株式会社／医療法人／社会福



消費生活マスター介護研究会著

信山社 800 円 (税別)

[illegible]

サ高住見学時の記入チェックリスト

社法人」か。立地は、最寄り駅やバス停からの所要時間はどうかなども大事な要素なんです。都市型、郊外型、自立型、医療連携型、介護重視型、生活重視型と多様な形態から選んでいけるようにもしています。

モデルケースが示され、わかりやすいですね

「今のマンションで夫の介護ができるか」というAさん夫婦、「離れたところに一人で暮らす母の様子心配」なBさん親子など、入居者を3つのモデルケースで考えてもらいます。



「一人暮らしを



エンjoyしているがちょっと不安も…」というCさんの場合では、女性・68歳・一人暮らし・自宅マンションという現状から、複数のサ高住を見学し、候補ごとに検討していきます。本人の感想、友達のアドバイス、地域包括センターの職員のアドバイス、検討結果を簡潔に書いています。それをケースごとに示しています。また、メリットとデメリットの優先度や重要度を知り、「こんなはずではなかった」とならないよう確認の具体例を書いています。

出前講座の様子はどうか？

地域の福祉センターなどに出かけ、90分くらいサ高住の説明をします。名前は知っていても詳しいことはあまりわからないと言われるので、具体例を挙げて説明します。

みなさんは費用がいくら必要か？が一番の関心事です。サービス付きと聞くと介護サービスがついていると思っている方がいますが、あくまで安否確認と簡単な生活相談のみで、あとは有料の追加サービスなんです。

私が見学に行った所ですが、食事の介助が1食 857 円を3食、薬を渡してもらっただけで1日 286 円、その薬を飲んだか確認するのに1日 286 円で、合計 3,143 円が必要でした。もし1か月の食事と服薬管理をお願いしたら9万円以上かかると伝えと、みなさんびっくりされます。

またペットボトルのふたを開けてもらうだけで、なんと50円取られるところもありました。食事を部屋に運んでもらうのにも150円・・・となると、そのうちイケメンの介護士さんをお願いすると加算されるのかも？と思ってしまいます。(笑い)

最初は笑顔で聞いていた方も、これだと年金

だけでは無理だと言われます。あまり夢のない話をするサ高住協会からおしかりを受けそうですが、あとで後悔することのないようによく考え・調べて契約しましょうと伝えています。

これまで数か所に出向きましたが地域の差というか、おもしろいなと思うことがありました。

この前は、高級住宅地といわれる所へ行ってきました。マシンガントークの婦人会長に出迎えられ、いきなりご家族の自慢が始まり、どう反応したらいいのか困ってしまいました。また、費用の安い

サ高住を紹介したところ、場所を聞かれたので鉄道の沿線で説明すると「あ〜あ。そこは…」という反応でした。自分には、不似合いな場所と感じたのでしょ

介護 ＊介護が必要でも住み続けたい＊

◆入居の条件 要介護度(1・2・3・4・5)、認知度(),健康状態()
 ◆過去の要件 要介護度(1・2・3・4・5)、認知度(),健康状態()
 住み続けられない迷惑行為の具体例(拒否・不協和音)
 ◆ケアマネジャー[選べない/選べる] ◆介護事業所[建物内/外部]

お金(契約) ＊負担できる範囲で暮らしたい＊

入居するときの費用

敷金	270,000 円
電化製品	円
カーテン・家具	円
合計	270,000 円

◆支払い方法
 [口座引き落とし/その他]
 ◆料金の変更 [なし/あり]

毎月の費用

家賃	95,000 円
共益管理費	21,000 円
生活支援サービス費	30,000 円
水道・電気代	家賃に含まれる 円
その他のサービス費	9,000 円
介護保険自己負担金	15,000 円
合計	261,500 円

見学時のチェックリスト<介護>

これからの出版予定はありますか？

今、準備中なのが『サ高住の決め方』です。まだ仮題で、イラストや校正が残っていますが、原稿はほぼ固まっています。

読みやすくして解りやすい本なので、次回作も合わせて多くのサ高住を必要とする高齢者や家族の方々に読んでいただけたら嬉しいです。

まだまだ手探りですが、サ高住について消費者保護の観点から、利用者のための出前講座を楽しくやっていきたいと思っています。

「サ高住」を選ぶということは、入居者の人生や暮らし、経済的な問題や人間関係など丸ごとを考えることだと思いました。酒井さん、ありがとうございました。

(聞き手・文:「けやき便り」編集クラブ 河田)

2016 上海・美食の旅

研究生 楊 錦華

上海 西欧文化の入り口、港町、ジャズ、洗練されスマートで流行の最先端に行くファッションナブルな大都会、なにか神戸と共通しているところがありそうだ。9月初の杭州サミットと国慶節休暇を避け、旅行期間を9月11日～16日の5泊6日とした。

参加者11名が関空に集合。午前のCA164便^{ブードン}で出発、2時間ちょっとで上海浦東に到着したのは現地時間10:30。通関入国のあと、手配してあった旅行社の出迎えを受け、貸切の中型バスで市内へ向かった。ホテルチェックイン^{ラオザン}を後回しにして昼食の「上海老站」へ行き先変更。「食」優先であることは言うまでもない。

予約した個室は調度品が骨董調であり、静かで落ち着いた雰囲気があった。大きな窓の外は小雨にぬれた客車が置かれ、店全体が汽車の駅をデザインしたような設えであった。部屋の最低料金が3,000元と知らされ、どんどん料理が注文された。お茶は何にしようかと銘茶メニューを見ると1名168元とあり、あわてて注文を抑えた。料理は上品でおいしく、盛り付けも精緻で美しいが値段も結構な高級店である。

地下鉄徐家匯駅^{シュジャフイ}に近い「建国賓館」^{ジェングオビングアン}に宿泊。ホテル前の通りには地下道が駅まで続いており、とても便利な立地で価格も安く人気がある。一服する間も惜しんで皆で出かけ、地下道を通って駅周りのショッピングセンターに行ったが、輸入ブランド品ばかりが目につき、総意で地下の食料品スーパーへ。特に買いたいものがなく、珍しい果物はないかと思まわすと、見たこともないような直径が3センチを超える大きなビングチェリー^{なつめ}があった。そして生の棗を試食したら梨のような食感で甘く意外であった。

紹興 紹興の名は酒でというより、文人・魯迅の古里として有名である。ホテルは歴史ある咸亨酒店^{シェンハンジウデン}に入り、その素晴らしさにいささか感激した。昼食はホテルの中餐厅、一流のサービスと美食にめぐまれ、値段も非常に妥当なもの

であった。此处での滞在は本当にリラックスでき、たいへん心地よかった。是非再訪したいと思う。

午後、江南の風情ある歴史的な街並みと魯迅古里を遊覧のあと、さらに周り一円を自転車観光した。道はほとんどが石畳で凸凹が多く、車夫はひいひい言いながらもブレーキとペダルを巧みに操り、省エネ走法で上り下りをこなした。町の至る所に石材が多く使われ、近くにきっと大きな採石場があるに違いないと思われた。

翌日は奇石で知られる景勝地「東湖」に遊ぶ。千年以上の長きにわたり採石された跡に川の水が流れ込み、200mあまりの人工の堤で仕切られたのが東湖という。堤から眺めると対岸には採石の跡と思われる石の絶壁が聳え立っている。



紹興東湖・仙桃洞に行く烏蓬船

ここで真っ黒に塗られた烏蓬船^{ホロンジウ}に乗り、湖の奇景とされる陶公洞や仙桃洞を巡る。船頭は長短2本の櫂を巧みに使って操船するのが特徴的である。長い方の櫂を船尾の支点にかけて足で漕ぎ、短い方はパドルのように操作して船を進める。湖面をたくさんの烏蓬船が行き交うなか、狭い洞窟の近くでは接触することなく5センチほどの間隙ですれ違う技は見事というほかない。

午後は「中国黄酒博物館」を見学。博物館の名称から分かるように、我々が言う紹興酒は一般的には黄酒と呼ぶ。他所で作られた黄酒は紹興酒とは言わない。紹興は地名であり、清酒でいえば、灘の酒、伏見の酒のようなものである。その歴史や飲酒風俗の形成、更に醸造過程など

をざっと見て、ティスティングのコーナーへ急ぐ。そこで分かったのは辛口、甘口の分類である。糖度1%未満の辛口は元紅酒といい、辛くてとても飲めなかった。「話梅（干し梅）」を加えてまろやかにするのがよいという。原料の糯米を増やした糖度3%未満のものを加飯酒、やや辛口と呼ぶ。10%未満はやや甘口の善釀酒、それ以上を甘口・香雪酒と分類する。花彫酒とは、本来は石膏を塗った酒甕の外周に花柄や図案を彫り、彩色して製作された工芸価値のあるものをさす。しかし、近年は瓶詰された花彫酒が多くみられ、その糖度は加飯酒程度だとされる。

杭州 目指すはもちろん目玉の「西湖」である。G20 開催中の諸規制が解かれた西湖は雨にもかかわらず大勢の観光客であふれていた。ガイドはその職務を忠実に果たすべく、丸い目玉を更に大きく開いて懸命に西湖十景を紹介するが、その美しいはずの姿はことごとく霞の中に隠れた。近づくにつれ交通規制が敷かれ、バスは思うように進めなくなった。昼食を予約した湖畔の「味 荘」に近づいても下車のための路上停車が許されない。仕方なくはるか遠くでバスを止め、大雨の降りしきる中、車いす（2台の参加あり）とともに歩くこと20数分でやっとたどり着いた。

「味荘」はその昔、杭州料理を広めようと「知味 観」が上海に開いた杭菜酒家の姉妹店である。今では「知味観」はチェーン展開しその名は蘇浙に広く知られている。その料理の特徴は杭州の特産品、ハム、湯葉や龍井茶葉を使い、淡白滋味を旨とする。店の代表料理である「金牌扣肉」と「龍井蝦仁」を共に食べることができたのは幸せであった。悪天候のため予定していた西湖遊覧を取りやめ、上海に戻ることにした。

再び上海 上海観光でもっとも有名な城隍廟・豫園」を参観。城隍廟は道教の寺院、豫園はその付属の庭園（廟園）との位置づけである。小雨のなか、ガイドに付いて豫園の一部を駆け足で廻り、城隍廟での焼香はやり過ぎた。

一帯は傘がぶつかり合うほどの混雑であったが、文化の違い、美感覚の違い、風俗・信仰の違いなどなど、実に見ごたえのある景点である。外に出ると豫園商城が隣接し、その一角に昼食場所の「緑波廊」が建つ。これは「200年前の建築を改築して調度品も優雅に整え、民族的風格ある餐厅とした」と1982年刊行の中国名菜集錦（本学園図書室蔵書）に紹介されているほどの名店なので期待が弾む。「黄瓜苗（花をつけた4センチほどのキュウリの実の炒め物）」、蘇菜の代表料理「松鼠大桂魚（桂魚のから揚げ甘酢あんかけ）」に出会えたことがうれしい。



豫園商城・緑波廊

最後の夜は中秋に当たるが名月が顔を見せる気配は全くない。しかし、うれしいことに夕食は「圓 苑」というレストラン。丸いお月様が連想される名称である。献立には月見に欠かせないといわれる「冰糖山芋（形が円と方、天と地を表す）」、「酒釀圓子（白玉団子）」などの品々が並び、月餅の差入もあった。「糯米紅 棗（棗に挟んだ糯米だんご）」はこの名物だが、私にとって何といっても最高のごちそうは「火踵煲老鴨」というじっくり炊き込んだスープであった。

帰国はCA163便、出発予定時刻が15:30のところ大幅に遅延し、関空に着いたときには日付が変わり、5泊7日の旅になった。帰りは疲れたが「口福な旅」であった。

継承される民俗芸能

園田・^{かみけま}上食満の獅子舞

情報学科2年 藤原 多計治

1. はじめに

獅子舞をはじめとする日本の伝統民俗芸能は、歴史の重層性に、地理的条件や風土が絡まり、地域固有の芸能が形成されてきた。獅子舞は、舞い手が神の神座である獅子頭を付けて、悪魔祓いの目的で各戸を訪れて舞う民俗芸能である。

尼崎地域の獅子舞は、大正末期になると消滅してしまったが、今も継承されているのは、上食満の獅子舞のみである。上食満の獅子舞を紹介し、かつ継承活動を記述する。

2. 上食満の獅子舞

上食満の獅子舞は、上食満稲荷神社に奉納される民俗伝統芸能である。上食満の獅子舞は、中国から伝えられた伎楽に起源をもつと云われている。

いつごろから村で獅子舞が始まったのか、記録がなくはっきりしたことはわからないが、室町時代までさかのぼるとも云われている。獅子舞は戦時中に一時中断したが、昭和21年(1946年)に再興され、昭和40年(1965年)からは、保存会を結成して、現在に伝えられている。

獅子舞の奉納は、氏神の秋祭りである10月22日の宵宮と23日の本祭に行われるほか、23日の早朝より村の各家をまわり、カマドの前で舞う荒神祓いも行われる。

獅子頭は伊勢大神楽の頭で、昔は雌・雄の二頭あったが、今は雄の獅子頭のみである。二人使いの獅子頭は、頭、尾とも着物を着て帯を締め、黒足袋、草履ばきである。神社の境内で演ずるときには演者以外に、まねし、猿の役が必要である。この役は、小学生で3年から4年の男子の子供がつとめる。

23日午前中には、村中の家々を訪れて荒神祓いをする。このときは、獅子を使うものと、囃

子方だけで廻るが、出迎えた当主は礼としてハナを上げ、これが保存会の資金となる。午後は稲荷神社の境内に舞庭をつくって奉納する。

獅子舞は、演者と楽人で構成され、獅子頭は一人が一演目を担当し、一般には父親の演目を息子が引き継ぐ例が多いという。尾の方は演者が交代でつとめる。楽人は、太鼓が一、笛が三である。ともに教科書、楽譜にあたるものはなく、すべて先輩から直接手ほどきを受けて習得する。獅子舞の演目・由緒を以下に説明する。

1. 悪魔祓い：必ず最初に演じられ、獅子が刀を口にして舞う。世の中のあらゆる悪魔・邪念を祓い除き、五穀豊穡、無病息災、万民安定を祈願する舞。
2. 初かかり：このとき初めて天狗、ひょつとこと二人のお多福が、スリザサラを鳴らし獅子の相手をして舞う。五穀豊穡を祈念し、万物育成にたち向かう喜びの舞。
3. 白石：一家一族の心身の健康と家業繁栄を願う舞。
4. 花の舞：永い冬眠よりさめて、森羅万象ことごとく精気をふきかえし、開花らんまん満ち足りて、よき実より種をとこしえに伝え残す喜びの舞。
5. 新車：五穀豊穡、民生安定の喜びを天地四方の神に感謝の念をこめて奉納する舞。
6. 扇の舞：五穀豊穡、千寿万歳を祝う舞。
7. 玉獅子：五穀豊穡、万民安泰、宝庫の恵みの宝玉を授かる喜びの舞。

以上の演目が続き約2時間で終了する。

3. 継承活動

①継承を支える保存会

上食満獅子保存会の結成で青年団だけでなく各世代が支える仕組みとした。

②地域の人々とつながり

各家々をめぐることにより地域の絆を強くし、地域住民で継承を支える力となっている。ハナは重要な資金となる。

《四国八十八か所巡礼の旅》で結願した人の話

情報学科2年 岡田 真人

まだ暑いさかりの夕暮れ時、暇人が何人か居酒屋にあつまってビールを呑みながら与太話に興じていたときの事です。そのうちの一人が“おれ、去年の春先に《四国八十八か所巡り》で結願したワ”という話を切り出したものだから、俄然その場のテンションがヒートアップしました。

阿波から始めて土佐、伊予、讃岐の各霊場を徒歩のお遍路で、ワタクシのように一気呵成にやるなら、おおよそ五十日はみておきなさい、とのご宣託。七週間かア。それは、ちょっと体力的にムリ。終わったら寝込むデ。周りの軟弱なおっさん連中、早くも腰が引けておりましたが、結願した友人も六十歳台後半で、とくべつ体力に自信があるわけでも健脚を誇るわけでもなさそうなのです。



一番札所 霊山寺（徳島県）

霊場巡りのスタート地点、阿波（徳島県）の二十三か所は、物珍しさもあってか、まずは快調。だいたい一週間もあれば制覇できるそうです。問題は土佐（高知県）の霊場十六か所。山あり谷ありの急峻な地勢を「同行二人（弘法大師との二人連れ）」で黙々と歩くのが辛いものって…。歩くのに飽きる。疲れがピークに達する。その結果身体に変調をきたし、五体のすべてが悲鳴を上げ、原因不明の吹き出物に悩

まされ、いつ止めようかと考えることはそればかり。土佐の国での七日目から二十日目あたりの約二週間、ここらあたりがお遍路さんにとっての地獄の胸突き八丁なんだそうです。

そうこうするうちに伊予（愛媛県）の霊場二十六か所に突入。南宇和島に入ると海の様相も心なしか優しく感じられるようになり、風景を愛でる心の余裕が出てきて、美しいリアス式海岸に見とれながら歩けるようになる。いままでの苦闘がウソのように体が軽くなり、食がすすみ、夜も熟睡できるようになる。あとはまるでドーパミン出っ放しのランナーズハイのような状態なんだそうで、伊予での二週間、讃岐での二週間の道程は、難なくこなせたとのこと。とくに讃岐（香川県）の霊場めぐり二十三か所は、もうこの遍路旅も終わってしまうのかと思うと、名残惜しくて、名残惜しくて、という心境だったそうです。



八十八番札所大窪寺（香川県）

思いがけず友人の四国八十八か所巡礼の一部始終を聞きながら、すくなく刺激をうけました。いくら何でも自分の体力ではムリ、いや、いや、歩くのはムリでも自転車の旅なら・・・、と逡巡しきりの今日この頃です。

タイ・ラオス・ベトナム周遊の旅

研究生 十河 和夫

1. はじめに

2016年の8月、タイ・ラオス・ベトナムを周遊してきました。ラオスとベトナムは南北に長く東西は細い国です。この細くなった地域を横断すると楽にタイからベトナムに旅行出来ます。今回はこのルートを選んで周遊の旅にでました。

東南アジアの旅の基点はバンコクが便利です。バンコクからウボンのロウソク祭りを見物した後、ナコーンパノムへ。ナコーンパノムからラオスのターケークに入国。ここからベトナムのヴィン、ニンビン、ハロン湾、ハノイ、ラオカイ、サバ、デインビエンフーを周遊。ここからラオスに再入国してルアンババーン、バンビエン、ビエンチャンを南下。再びタイのノーンカーイに入国してバンコクに帰るという旅でした。

東南アジアの旅は慣れているはずなのに、今回はネコブル（虎ではなく猫程度か？）に見舞われてしまいました。そのネコブルについて書きます。

2. ラオスからベトナムへの国際バスは

密輸バスだった！

バックパッカーが良く利用するのはラオスのサワンナケートからベトナムのフエへ抜けるルートです。国際バスだと8時間ぐらいで行けます。しかし、国境おたくを自認する僕としては誰も行かない国境を選んでしまったのです。猿でも解る事ですが、利用を避けているというのは何かあるからなののですが。で、何が起こったのか。

ターケークのホテルでヴィン行きバスを手配してもらいました。ヴィンはホーチミンの生まれ故郷ですが、日本人は立ち寄らない街です。フロント係にバスステーションまで連れて行ってもらいました。予約したバスは8時30分発で

す。バスは20人乗り程度のマイクロバスでした。8時を過ぎているのに車のドアは閉まっていた。8時20分頃運転手がやってきて荷物をトランクに積み込んでくれました。でも、出発する様子はありません。何時頃出発するのかと聞いても曖昧な返答です。あろうことか運転手は再びドアを閉めてどこかにいってしまいました。

9時になっても客は僕1名のみです。9時30分になっても誰もきません。東南アジアでは遅れるのは普通ですが、ここまでくると異常です。時間は10時になっています。もう不安で胸が潰れそうになった時に若い女と中年の女の客、運転手と助手の男もやってきてバスに乗り込みました。10時20分にやっと出発しました。この時点で何かおかしいと気がつかなければならないのに、出発した喜びで他のことは何も考えられなかったのです。迂闊でした。

途中で若い男が一人乗り込んできましたが、客の少ない国際バスでした。東南アジアではこんなことは滅多にありません。むしろバスの屋根にまで乗らせて詰め込むのが普通なのです。しかも、国際バスなのに僕以外は現地人です。バスは農家の前で停まると、乾燥植物を詰め込んだ袋を30袋ぐらい後ろの客席に置きました。しばらく走ったらその袋をすべて道に放り投げました。そうしてバスは検査場で車を検査しました。その後、さきほど放り投げた地点まで戻ります。そうして、男たちはバスの後部座席をあげて（客席は改造されていた）袋をその空間の中に放り込むではありませんか。さらに、その空間の上に板を敷き客席で覆います。そこに若い客が寝転びました。どうみても、その下に袋が隠されているとは見えません。ここにきて気がつきました。僕以外総て仲間だったのです。

バスはしばらく走ると、検閲の検査員が乗り込んできました。すると若い女が書類の下に金

を挟み込み渡すのです。検査員はバスをざっと眺めてOKです。しばらく走るとまた検閲です。同じ事が再現されます。そしてラオス側のイミグレーションに到着。ここでは私の荷物まで厳しく検査されました。もちろんバスも厳しく検査されていました。20分ほど検査され出発。なぜか、ベトナム側のイミグレーションまでバスで5分ほど距離がありました。



ベトナム側イミグレーション

ベトナムのイミグレーションでも厳しく検査され、ベトナム側でも途中で2度検査されました。何なんでしょ、この厳しい検査態勢は。ベトナムの2度目の検査が終わってしばらく車が走ると車内の空気がなごやかになっていくのが感じられました。僕もこれで安心になったとホッとしました。今考えても、なぜ僕を客としてバスに乗せてくれたのか良くわかりません。

ここで得た教訓<人が避けているところには何かある！>

3. ニンビンで嵐に遭遇する！

夕方から降り続いた雨が深夜になると激しくなり風もキツくなってきました。部屋は2Fなので窓にはヒューヒューと風の音が大きく鳴り響いています。そこに雨の音が被さってまさに台風のまっただ中にいる感じです。そして、電灯が消えました。停電です。もう寝るしかありません。しばらくうとうとしていたのですが、何か部屋の様子が変わります。懐中電灯で床を照らすと浸水しているではありませんか。2Fなのになぜ？ 実はオープンテラスの廊下に吹き込

んだ雨水が流れ込んできたのです。慌てて旅行バッグを机の上に上げ、雨水を必死になって排出しました。もし床にパソコンでも置いてあれば故障していたことでしょう。危ないところでした。

朝になっても街全体が停電です。街を歩くと看板は飛ばされている。街路樹が倒れている。枝が折れてあちこちに散らばっている。嵐は相当大型だったようです。停電は夕方になっても復旧しません。部屋にはロウソクが配られました。夜になるとロウソクが灯され幻想的な風景です。部屋では何も出来ません。中庭にテーブルが並べられ、ファランのバックパッカーはお喋りをして楽しそうです。一人旅の僕はちびちびビールを呑んで時間潰しです。孤独に自由存在するなど感傷的な気分です。8時頃電灯が灯ると同時に、ワーという歓声が沸き起こりました。嬉しかったです。



ロウソクの下でビールを呑む

4. 中国に半日観光してベトナムに

再入国しようとしたら拒否される！

ラオカイから橋を渡ると中国の河口（フーコウ）です。ベトナムも中国も15日以内ならビザ無しで入国出来ます。で、気楽な気持ちで中国に半日観光することにしました。ベトナムから中国の国境越えはスムーズでした。河口の街は国境の街として栄えているようでしたが2時間もうろうろすれば観光するところは何もありません。

早々と観光をやめてベトナムへ再入国しようとしたら拒否されたのです。日本人はノービザ

で良いはずだと言っても通用しません。拙い英語と手振り身振りで解ったことは観光ビザが必要だと言うことらしいのです。なぜ必要なのかと聞いても会話が成立しません。日本語が話せる係員はと聞いても高圧的態度でノーです。そして、中国に帰れと言われてしまいました。もうパニックです。荷物はホテルに預けたままです。中国でベトナムビザを取得するとしたら何日かかるか分かりません。呆然となって床にへたり込んでしまいました。



橋を渡ると中国

その時です、位の高い係員がビザを取得してくれる旅行社を紹介してやろうというのです。地獄に仏です。蜘蛛の糸を掴む気分で紹介してもらいました。30分ほど待つと男の人がやってきて80\$で取得してやろうと言われました。高額なビザ代になりますが、金よりも再入国の方が大事です。この時ほどドルを持っていた良かったと思ったことはありません。バックパッカーは貧乏旅というイメージですが、緊急用の金はいつも持ち歩く必要があることを痛切に感じました。

ここで得た教訓<国境侮るべからず！>

5. さいごに

今回の旅はベトナム北部を旅することでした。目的の街は、ディエンビエンフーでした。ベトナム独立の舞台となった街を見たかったのです。フランス軍と死闘を戦い抜いたベトナムはここで勝利して、フランス植民地支配から脱しました。しかし、フランスの支配からの終わ

りはアメリカとの戦いの始まりでもありました。いわゆるベトナム戦争です。僕の胸の中ではベトナム戦争とは何だったのだろうかという疑問が未だに心のしこりとしてあります。



最後まで立てこもったフランス軍
の塹壕に打ち込まれた爆弾の跡

ベトナムはディエンビエンフーでフランスに勝ち、ベトナム戦争でもアメリカに勝ちました。しかし、専門家にいわせれば、それは、「勝ったのではなく、負けなかった」戦争でした。ベトナムは戦争に勝ったが、その後の歴史は平坦ではありませんでした。ベトナムはカンボジアに侵攻してベトナム戦争反対で支援した多くの人々を落胆させました。また、この侵攻に国際社会は反発し、ベトナム経済は破綻寸前まで追い込まれます。その後ドイモイという市場経済の導入で息を吹き返しましたが…。ベトナムにとってディエンビエンフーは、特別な街です。社会主義が勝利を導いたという思想がこの街に張り巡らされていて、街全体が戦争勝利の記念館になっていたのです。

ここでの感想<どこを歩いても戦争遺跡にぶつかる>

文歴12期生の懇親会

研究生 青木 利明

私達は平成25年に文学歴史学科に入学しました。平成14年入学が1期生ですので、平成25年入学の私達は第12期生となります。そこで私達は、研究生となっても「文歴12期生」として親睦を深めて行くこととしました。

文歴12期生は入学時25名でしたが、現在23名が在籍しています。その内20名が出席して6月29日に懇親会を開催しました。

相変わらずこのクラスの出席率は高いです。場所はいつもの「かごの屋」さん。

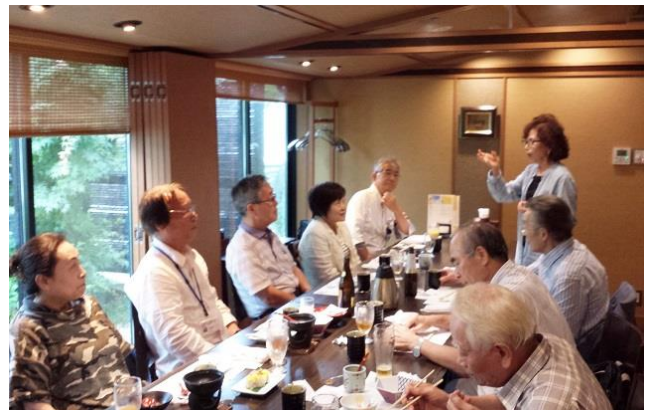


今回は研究生となつてから初めての懇親会開催の為、問題もいろいろ発生しました。

研究生の為受講科目がバラバラとなり、従来のように受講時に紙で連絡を取り合うことができません。そこでメールでの開催案内の通知、出欠回答という方法を探りましたが、メールに不得手の方や、携帯電話の設定を「パソコンからのメールを受信しない」としている人もおり、全員の出欠確認に幹事は大変手間が掛かりました。

何か良い方法があれば是非アドバイスを頂きたいものです。

さて研究生となつてから初めての懇親会で久しぶりに会う人もおり、和気藹々と懇談が進みました。途中で席順を変えて更に懇談。全員から一言ご挨拶を頂きました。



近況報告から始まり、受講科目の印象、趣味関係等々、懇談内容も多岐に渡りました。入院されている方がいることもあり、特に健康問題に関する話が多かったようです。

予定の2時間30分が、あっという間に過ぎてしまいました。

いろいろ課題もありますが、文歴12期生の懇親会を今後も続けて行きたいと思います。



文学歴史学科9期生 同期会

研究生 木下 俊造

9期生28年度後半の同期会も、6月23日に大阪市立美術館「仏教美術―聖徳太子をめぐる美術」「源氏物語絵巻」等の見学～大阪マルビルでのランチ会、9月14日は、一部の方も出席された「吉村先生：めぐみ会セミナー」終了後に西宮北口でのランチ会を実施しました。

両日の参加者は17名と15名を数え、6月もそうでしたが、特に9月は長くご無沙汰の方にも多数出席いただき、積もる話が尽きない状態でした。そのせいか、引き続いての二次会参加者もいつもより増え、久しぶりの楽しい時間を長く過ごされた方も多かったようです。

6月の市立美術館展示は見ごたえ十分で、時間も足りないくらいでしたが、天王寺公園の入口が「てんしば」にリニューアルされ、あの怪しい面影が見事になくなっていたのには、びっくりさせられた半面、昔の風情が懐かしくなったのは私だけだったのでしょうか。また、9月恒例の吉村先生のセミナーも、先生より今回で終了とのお話があり、長い夏休み後半の楽しみもなくなりそうで、少し寂しい気もします。

次回は12月に、見学&忘年会の実施を予定していますが、これからも変わらぬ仲間に出席していただければありがたいことで、年を経て回数を重ねるごとに、逢えるありがたさが身に染みるこの頃です。

2回とも写真が撮れていけませんので、9月ランチ会のメニューをご覧ください！



読者の広場

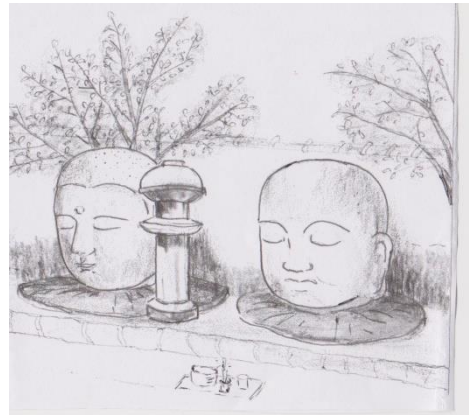
《俳句》

文学歴史学科3年 合田 一弘

その時に何を見たのか首地蔵

孫九人割れそで割れぬ大西瓜

晩秋や今年はネコのいない家



《ちんどん川柳》

文学歴史学科3年 伊藤 幸子

お笑いの白塗りはやり品不足

白塗りで子供あやすと逆効果

長帳場白塗りはげてお化けかな

地下鉄の運転手二度見バックする

総合生涯学習センターからのお知らせ

1 各学科・学年用連絡メールボックスの設置

皆様からお寄せいただくご意見・ご要望についてセンター内で検討、また大学施設等に関することであれば学内関係部署と協議したうえで可能な限り改善に努めています。例えば、クラブ・同好会活動に関連するバス・施設の利用等などです。

今年度はセンター内に新たにメールボックス（各学科・学年用）を設置しましたので、個人の学科・学年内での連絡用ばかりでなく、全般的な学生間交流にもぜひご利用ください。今後は、センターからの資料配布等にも使用いたします。このことでクラス委員の皆様のご負担の軽減へと進めてまいります。

2 後期特別講座について（予告）

後期の特別講座は、来年2月に開催予定です。
詳細は後日、センター前掲示板、HP 等でご案内し
ます。ご期待ください。

3 平成29年度の手続きについて

例年通り、1月初旬頃ご案内の予定です。
センター前掲示板、また、センター内メールボックス（研究生は個人ファイル）をご確認ください。

4 今後の行事予定他

平成29年3月10日（金） 13:00～14:00予定	平成28年度卒業式
平成29年4月6日（木） 13:00～14:30予定	平成29年度入学式
平成29年4月10日（月）	平成29年度授業開始

注1) 入学式の曜日がこれまでの「金曜」から「木曜」に変更
になっています。ご注意ください。

注2) 在校生・研究生の入学式参加・新学期手続きの見直しを行います。詳細は後日。

注3) 平成29年度の「学内レントゲン受検」は例年通り、4月末に実施いたします。「他機関でレントゲン受検の方」は、平成29年1月以降に受検した健康診断証明書（胸部X線検査）が有効になります。

5 シニア専修コース・平成29年度入学生募集

12月初旬より、次年度の募集を開始します。
ご入学ご希望の方には授業の見学をしていただきます。
皆様方の教室に「見学者」が参加することもありますので、その際はよろしくご協力をお願い申し上げます。

6 けやき祭参加報告 (10/22-23)

本学生涯学習のPRのため総合生涯学習センター「時代屋」を出店。一方、コーラス部、写真倶楽部、軽音楽同好会の皆さんは、すばらしい発表・展示で学園祭を盛り上げ多くの方々にご来場いただきました。

同じ会場で展示参加をした大学生同好会(マンガ研究部)は、シニアの皆さんとの交流にとても刺激を受けたようです。

以下、研究部の部長さんがその様子を4コマ漫画にし、寄せてくれました。紙面の関係上、吹き出し内コメントが見辛いですがご紹介します。



情報誌への投稿のお願い

「けやき便り」編集クラブでは皆様からの投稿をお待ちしています。俳句、短歌、川柳、絵、書、イラスト、クラブ新設の呼びかけなども歓迎いたします。

投稿は2号館1階の総合生涯学習センターにある研究生ファイル横の「けやき便り」編集クラブファイルに入れていただくか、もしくは下記メールアドレス宛に原稿を添付して送信下さい。

hideyasakurai94@gmail.com

尚、投稿された原稿は、誌面の都合により変更・修正する場合や編集会議の審議により掲載できない場合（宗教・政治に関するものや公序良俗に反するものなど）がありますのでご了承ください。

「園田シニア人間探究」への応募

園田シニアの学生の中で興味深い人生経験をされた方や面白い趣味などに取り組まれている方の応募をお待ちしています。自薦他薦を問わず、多くの方のご紹介をお願いいたします。

連絡先：国際文化学科2年 櫻井 秀也
携帯：090-6904-9738

編集後記



今年の「けやき祭」は、シニア専修コースのクラブや同好会なども参加して若い学生の皆さんと共に大いに盛り上がった学園祭になりました。「けやき便り」編集クラブでも取材や写真撮影など大活躍、ご覧のような「けやき祭」の記事をお届けすることができました。

これからもより多くのシニア学生が参加できる楽しい学園祭になることを期待しています。
(T. T)

「けやき便り」各号のカラー版が園田学園女子大学 総合生涯学習センターのホームページからご覧いただけます。

<検索方法>

園田学園女子大学 総合生涯学習センター

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部総合生涯学習センターは、(以下省略)。

[公開講座](#)

[園田学園女子大学総合生涯学習センター](#)

[資格・検定](#)

[シニア専修コース](#)

[公開講座お申込みに当たってのお願い](#)



シニア専修コース

総合生涯学習センター

〒661-8520
兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学・短期大学部
総合生涯学習センター

TEL:06-6429-9908
FAX:06-6421-7008
syougai@ronoda-u.ac.jp

よくあるご質問
個人情報について

本学公開講座の発展型である3年制の専門コースです。新たに学びたい方、さらに深く学びたい方などに



キャンパスライフ

シニア専修コース受講生は、本学学生に準ずて図書館や食堂・売店の他学内の施設や(以下省略)

[クラブ紹介はコチラから](#)



「けやき便り」編集クラブの紹介の後に「けやき便り」のバックナンバーが表示される

けやき便りバックナンバー

[けやき便り第14号発行日平成28年6月13日](#)

[けやき便り第13号発行日平成27年11月18日](#)

...